

## 地元開催の国民体育大会を終えて

鍋山隆弘<sup>1)</sup>

### After the locally held National sports festival meet

Takahiro NABEYAMA<sup>1)</sup>

2019年9月28日～10月8日、第74回国民体育大会（いきいき茨城ゆめ国体）が開催された。第29大会以来45年ぶりに地元茨城県で開催された同大会において私は剣道競技に出場した。剣道競技は、少年男子、少年女子、成年女子、成年男子の4部門。私が任されたのは成年男子の部副将のポジションであった。

5人制で行われる成年男子の強化は、先鋒（18歳以上25歳未満）、次鋒（25歳以上35歳未満）、中堅（35歳以上45歳未満）、副将（45歳以上55歳未満）、大将（55歳以上）の各ポジション候補者を2名に絞り、2年前から本格的に始まった。開催2年前までは、週1回の強化練習、2週間に1回程度の県外への練習試合、合同稽古を行い、1年前からは、週3回の強化練習と1.5週1回程度の県外への練習試合というかたちであった。

強化練習は月曜日水戸、水曜日筑波大学（学生と合同）、土曜日は再び水戸で行われ、私も仕事が重ならない時は全て参加した。月曜日は、素振り、追い込み、掛かり稽古などのハードトレーニング。水曜日は、先鋒から中堅までの候補が筑波大学の学生と練習試合を行ったのち合同稽古。特に、次鋒、中堅の候補選手は、大学生との試合の中でスピードへの対応力が高

まってくるのを感じた。「大学生には負けられない」というプレッシャーも良い方向に働いていたように思う。土曜日の強化は、強化選手間での稽古。素振り、練習試合、基本稽古、互格稽古をおこなう。基本的には20代から50代まで同じメニューを行うため、怪我をしないような工夫が求められた。

私個人が国体に向けて行ったのは減量だ。現役を終えて以降も学生との互格稽古を行っていると瞬間的な体の反応を押さえることができず、結果、腓腹筋、ヒラメ筋等に無理がかかって年3回程度の肉離れを繰り返す。この状況を変えるべく2年をかけて15kgほど減量した。それによって身体の切れを取り戻し、現役の頃の80%程度まで出来上がった感じを掴んでいた昨年4月の中旬、基本稽古の最中、技を出した瞬間に左足股関節あたりに激痛が走った。おそらく肉離れである。身体の切れを取り戻したことで過信して稽古をし過ぎ、動きと身体とのバランスを崩してしまったことが原因であろう。4月29日に開催される全日本都道府県対抗剣道優勝大会に出場予定だったため、まずは、その試合に出られないのではないかと不安がよぎった。整形外科を受診すると、やはり診断は内転筋の肉離れ全治3ヶ月。腓腹筋、ヒラ

1) 筑波大学体育系

Faculty of Health and Sport Sciences, University of Tsukuba

メ筋の肉離れであれば、3週間程度の安静で練習に復帰できるのであるが、内転筋は復帰まで三倍の時間を要する。内転筋を使わないような技の練習を行うことで、とりあえずしのぐこととしたが、まともに稽古はできない状態となった。

全日本都道府県対抗剣道優勝大会は、先鋒高校生、次鋒大学生、五将年齢18才以上35才未満のもの（警察職員、教職員、高校生、大学生を除く。非常勤講師、在学研究生、大学院生、専門学校生は含まれる。）、中堅は教職員の者（年齢に制限なし。学校職員、教育委員会職員も含まれる。）、三将警察職員の者（年齢に制限なし。刑務官、自衛官は一含まれない。）、副将35才以上の者（警察職員、教職員を除く）、大将50才以上剣道教士七段以上の者、以上の選手区分を設けた7人制の団体で行われ、国体本番に向けて、茨城県の実力をアピールする大切な大会である。結局私は不安を抱えたまま、同大会に大将として出場した。チームの状況は良く、決勝戦までで私に勝負が回ってきたのは1回。決勝戦は、大将戦となり、1本勝ちを収めて代表戦へ。代表戦は大将同士の1本勝負。そこで私が一本を取られてチームの負けが決まった。代表戦での負けは私の42年の剣道人生で2回目。不安の残る大会結果となった。

5月、全国教職員剣道大会の茨城県予選会が行われた。この大会は5人戦団体試合及び個人戦の予選会である。団体戦の副将、大将に年齢制限があり、副将は40才以上、大将は50才以上となっており、私は副将の部の予選会に出場した。怪我の状態は良くないものの、この大会も茨城県のチーム力をアピールする場でもあるため出場することとした。結果は優勝。決勝戦は一本先取した後に内転筋に痛みを感じて転倒するも、その一本を死守しての勝利。予選通過となった。

7月初旬、群馬県水上市で、10チームを超える都道府県の国体代表候補選手の練習試合が行われた。この練習試合は各都道府県の国体出場

に向けた強化を目的としたもので、優勝候補筆頭の東京都チームも参加していた。東京都メンバーの大半は日本代表選手で、本国体でも上位進出に一番近いと思われた。2試合目でその東京と対戦した。相手は、中田淳選手。46才と副将のポジションでは一番若く、元日本代表。警視庁に奉職している。この練習試合で一番勝っておきたい相手でありチームでもあった。この試合、一勝リードでむかえた副将戦、試合前から狙っていた左胴を先取したがその後が良くない。股関節の不安もあって後半守りに入ってしまう、中田選手の動きに翻弄されているうちに左足ふくらはぎに痛みを感じる。試合はそのまま私が一本勝ちし、チームも勝利した。しかし、症状は軽いものの今度はふくらはぎを肉離れしており、その後の試合は大事をとって休むこととした。

またもや怪我をしてしまった私は、その後7月末に予定されていた関東七県対抗剣道大会を辞退することとなった。同大会には前年も出場し優勝していた。しかも、決勝で元日本選手権覇者である千葉県鈴木剛選手から二本勝ちを納め、チームの勝利に貢献した験の良い大会。そこで連覇を果たして波に乗ろうという目論見が外れてしまっただけに、チーム自体は同大会に優勝し、二連覇を達成したものの複雑な心境であった。

7月末の集中授業マリンスポーツ後から練習を再開。怪我をしないよう軽めの稽古を始めたが、こんどは、アキレス腱が痛み始めた。

8月中旬、全国教職員剣道大会。この大会直前に国体選手が発表され、国体への出場が正式に決まった状態で同大会に臨んだ。会場は鹿児島県の川内市サンアリーナせんだい。鹿児島県は、次回国体の開催地で、強化が進んでおり、会場も鹿児島県チームの応援団で埋め尽くされていた。順当に勝ち上がり準決勝は予想通りに対鹿児島県。副将戦、相手は竹中健太郎選手、元日本代表の47才。それまでは、左足アキレス腱を痛めないよう無難に勝利してきたが、竹

中選手には通用しない。リードして回ってきたこともあり、引き分けに持込み副将戦にてチームの勝利を確定した。続く決勝戦は東京都。副将戦、今度は2本勝ちでチームの勝利を確定し、自身3度目の全国教職員剣道大会優勝となった。

9月上旬、最後の県外練習試合が栃木県にて行われた。この頃にはアキレス腱、ふくらはぎは回復していたが、再び内転筋に違和感を覚えていた。そこを傷めぬように注意を払いつつ一日目3試合を無難にこなし3連勝。そこまでの2年間で練習試合の9割は勝利し、残りは引き分けで無敗。しかしながら、最後の練習試合の内容が良くないので選手交代の可能性があるとコーチから告げられる。翌日は、練習試合を行わないつもりでいたが、このままでは選手交代の可能性もある。コーチからは、翌日の試合で結果を残して欲しいと言われるが、全力で試合をして内転筋が切れれば勿論本国内で実力を発揮することは難しくなる…思わぬディレンマを抱えることとなったが、ここは勝負所。全力を出して戦った結果、翌日は2本勝ちで3連勝。久々に気持ちの入った爽快な連勝をすることができた。現役の頃に戻った感じがした。

9月29日、いよいよ本国内剣道競技がはじまった。会場は筑西市の下館総合体育館。まずは、少年男女の試合が始まる。少年男子は、インターハイ準優勝の水戸葵陵高校のメンバーが主軸である。一回戦、今年度のインターハイ団体優勝の九州学院高校を主軸とする熊本県を下した後は、順調に勝ち進み決勝へ進出。決勝戦は、今年度の玉竜旗（5人制勝ち抜き、トーナメント方式の全国オープン大会で、高校剣道最大規模、最高レベルである）の決勝戦を戦った福岡第一高校、福大大濠高校という強豪二校の選手を主軸とする福岡県を下して見事に優勝。

続く、少年女子団体は、玉竜旗準優勝、インターハイ個人優勝者が大将の守谷高校の単独チーム。準決勝は、インターハイ、玉竜旗と僅差で優勝を譲った中村学園単独チームの福岡県

との対戦となったが、それに勝利した後、決勝でも長崎を圧倒し、優勝を決めた。

成年女子は、三人制で行われる。茨城県代表の先鋒は世界大会団体優勝、今年度全日本選手権3位の筑波大学4年生竹中美帆選手。中堅は元学生チャンピオンで筑波大学卒業の相馬沙織選手。大将もまた筑波大学卒業の川上厚子選手。メンバーの実力はどこともひけをとらないチームであった。一回戦の岩手県に圧勝した後は次々と接戦を制し、決勝に進出した。決勝は、昨年の世界選手権日本代表の妹尾舞香選手を先鋒とする福岡県との戦い。竹中選手、相馬選手の連勝で、大将戦を待たず、三部門目成年女子の部でも優勝を成し遂げた。

そいていよいよ成年男子の試合が始まった。一回戦はシード、二回戦静岡県、三回戦大分県との試合は、先鋒から中堅までの三連勝で順調に勝利し、準決勝に進んだ。内転筋肉離れ再発を警戒して、栃木での練習試合後は地稽古（実践的な練習）を控え、基本打ちを中心に調整をおこなっていた私は、絶好調とは言えない試合展開であったが、副将に勝負がかかってきたときに結果を残すことだけを考えて手探りしていた。

準々決勝の対戦相手は次年度国体開催地の鹿児島県と予想され、その副将は教職員大会でどうにか引き分けに持ちこんだ竹中選手であったが、栃木が鹿児島を下し準々決勝の相手は栃木県となった。チームがトーナメントを勝ち抜くには良い展開である。栃木県を下した後は、千葉県との準決勝。私の相手は、昨年の七県対抗で試合した鈴木剛選手。元全日本チャンピオン。先鋒から中堅の三人が勝利してチームの勝利は既に決まっているが、決勝をむかえるにあたり私個人としても勝っておきたい試合である。前半手元をあげた所に小手を打ち込まれるが、このまま終われない。じっくりと間合いを詰めて相手が出てきたところに得意技である出ばな面がきまった。チームの勝敗が確定しているため、このまま制限時間がくれば引き分けと

なってしまう。ここは勝利して、決勝に向けて勢いをつけたい。最後は、得意技の一つである左胴を決めて勝利した。勝負勘が戻ってきた感じがした。

決勝の相手は東京都。茨城県代表先鋒は、筑波大学3年生、今年度の学生選手権準優勝の戦績を持つ松崎選手。臆することなく2本勝ち。国体関係の試合で負けた試合を見た記憶がないほどの安定した戦いで、本戦も全勝で終えた。

次鋒は、神部選手。茨城県警の警察官、上段の選手である。神部選手は、次鋒のポジションが決まってからさらに勢いと実力をあげてきた。決勝戦まで全勝できている。対戦者は、筑波大学卒業、学生時代に全日本選手権をとった竹ノ内祐也選手、現在は警視庁勤務である。神部選手は、開始早々上段から面を決めてリードするものの実力者竹ノ内選手に二本返されて、逆転負け。これで副将戦に勝負がかかってくる展開となった。

中堅は、海老原選手。茨城県の警察官。昨年の国体で惨敗した結果に奮起して一年間の禁酒、筋トレも導入して絶好調で、練習試合で6試合連続二本勝ちを収めるほど実力と調子をあげて国体に臨んでいた。相手は、皇宮警察の警察官権瓶選手。海老原選手は実力を見せつけ中間から諸手突、面を連続できめ、チーム2勝目をあげた。

副将に勝負がかかってきた。対戦相手は中田

選手。練習試合の時に私が左胴を決めているのでそこは警戒されていると読みつつ、まずは積極的に技を出すことを考えて試合に臨んだ。それが功を奏し、相手が出てくるところに、得意技の出ばな面がきまった。調子が良いときに身体が反応して無意識に打つ技である。そこで一瞬、このまま逃げ切ろうかという考えが頭をよぎったが、強い相手に対して守りに入ると逆に一本をとられる事が多い。攻めてとり返されたらこちらもう一本とり返せばよいという強い気持ちでさらに積極的に攻めることを決心した。左胴を攻めると、案の定警戒されていた。その警戒を逆手に取り、左胴を意識させながら面を打ちに行く。必死に一本をとりにいく…面を捉える瞬間までの記憶はない。面が決まった感触と、ゆっくりとあがる審判の旗。勝った。会場の歓声、拍手、勝ったという喜びよりも安堵感の方を強く感じていた。その後、大将本名選手は八段らしい風格の試合内容で締めくくった。

地元開催の国体剣道競技四部門での完全優勝。しかも、それを自分の手で決定づけるという最高の結果を手に入れることができた今だからこそ、私の力を信じて起用し続けてくれたコーチ陣の気持ちに応えられたことの価値を実感し、関係各位に感謝するとともに、ここから嬉しく思っている。

## 第74回国民体育大会

開催日：2019年09月28日（土）～2019年10月08日（火）

開催地：茨城県

全競技 男女総合成績（天皇杯得点）

順位	都道府 県名	男女総合 (天皇杯)
1位	茨城	2569
2位	東京	2217
3位	愛知	1789

全競技 女子総合成績（皇后杯得点）

順位	都道府 県名	女子総合 (皇后杯)
1位	茨城	1331
2位	東京	1286.5
3位	愛知	1043.5

## 第74回国民体育大会 剣道大会

開催日：2019年09月29日（日）～2019年10月01日（火）

会場名：筑西市立下館総合体育館

剣道の部 男女総合成績（天皇杯得点）

1位	茨城	154
2位	福岡	96
3位	神奈川	60

剣道の部 女子総合成績（皇后杯得点）

1位	茨城	74
2位	福岡	61
3位	長崎	45

## 試合結果

### 成年女子

順位	都道府県
優勝	茨城県
二位	福岡県
三位	岡山県
四位	山梨県

### 少年女子

順位	都道府県
優勝	茨城県
二位	長崎県
三位	福岡県
四位	青森県

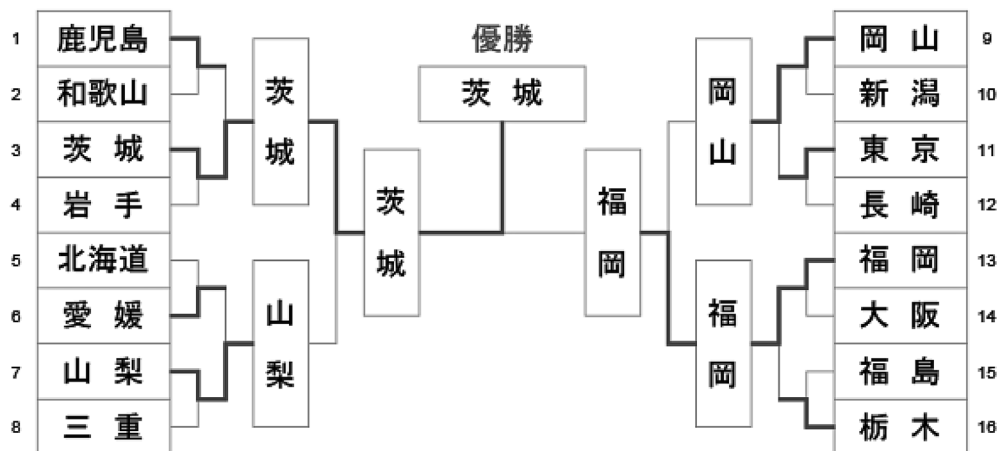
### 少年男子

順位	都道府県
優勝	茨城県
二位	福岡県
三位	兵庫県
四位	神奈川県

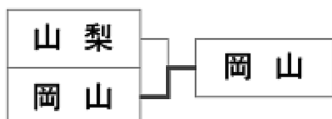
### 成年男子

順位	都道府県
優勝	茨城県
二位	東京都
三位	千葉県
四位	神奈川県

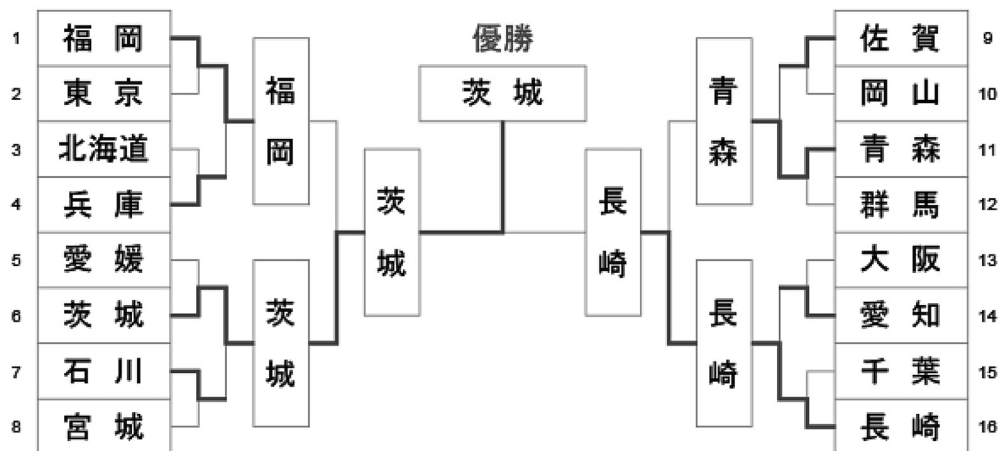
成年女子



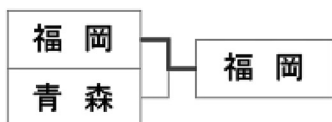
三位決定戦



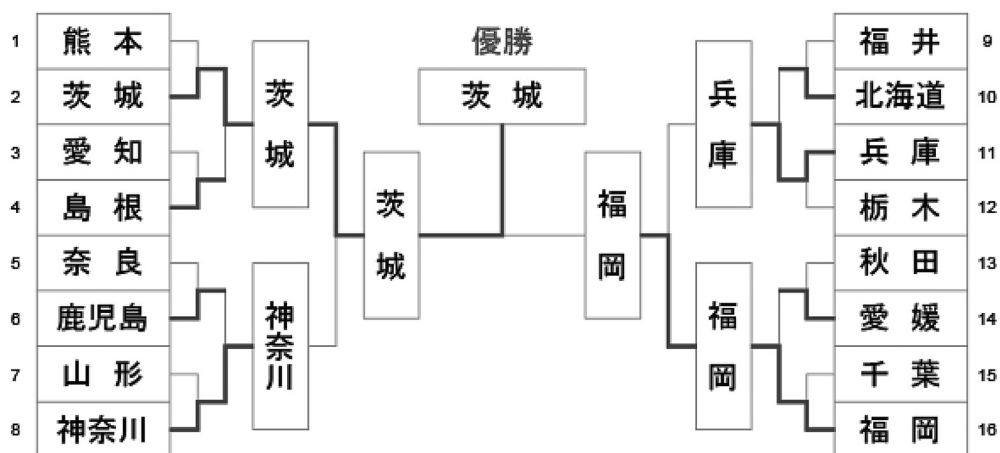
少年女子



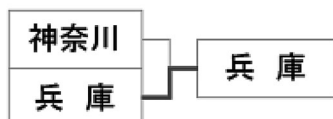
三位決定戦



少年男子

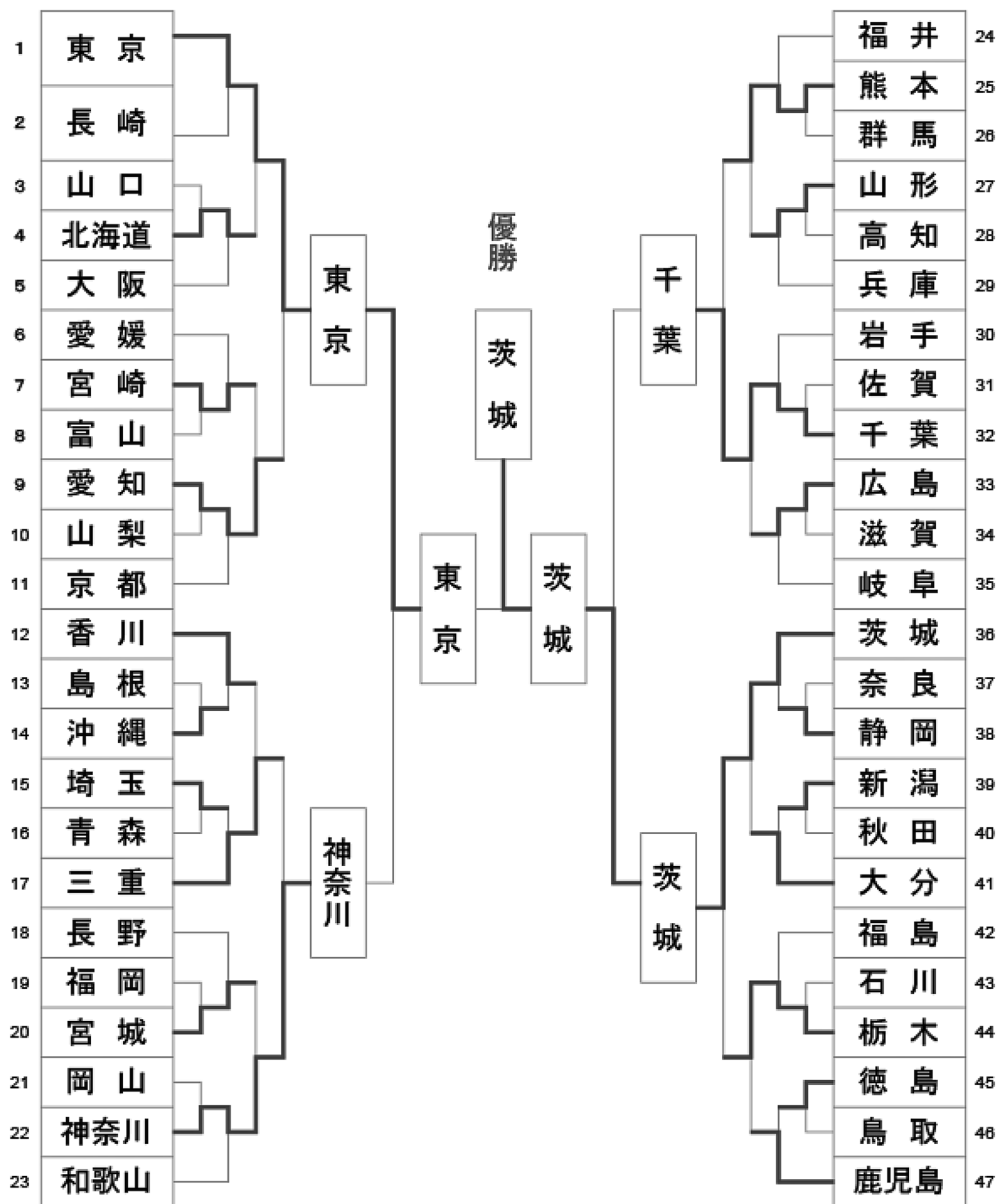


三位決定戦





成年男子



三位決定戦



【成年男子のオーダーと結果】

2回戦 第二試合場 2日目 第13試合

都道府県	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	勝者数	総本数	勝敗
茨城	松崎	神部	海老原	鍋山	本名	5	10	○
	× ト	× ×	ト コ	× ×	× × ×			
静岡	長田	山名	高坂	松井	中野	0	1	△
試合時間	2分22秒	4分40秒	4分44秒	2分25秒	4分6秒			

3回戦 第二試合場 3日目 第5試合

都道府県	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	勝者数	総本数	勝敗
茨城	松崎	神部	海老原	鍋山	本名	3	7	○
	コ ×	× ×	コ ×	コ ×	× ×			
大分	塩野	竹下	與根	堤	笠谷	2	4	△
試合時間	3分50秒	2分45秒	3分22秒	1分22秒	3分52秒			

4回戦 第二試合場 3日目

都道府県	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	勝者数	総本数	勝敗
茨城	松崎	神部	海老原	鍋山	本名	4	7	○
	× コ	×	一本勝負	×	一本勝負			
栃木	大平	市川	鈴木	藤原	安良岡	0	1	△
試合時間	3分46秒	5分0秒	0分44秒	5分0秒	5分0秒			

準決勝 第二試合場 3日目

都道府県	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	勝者数	総本数	勝敗
千葉	小川	熊谷	小谷	鈴木	林	0	2	△
	ト		延長	コ	引当分行			
茨城	松崎	神部	海老原	鍋山	本名	4	7	○
	× × ×	×	ト ×	× × ト	× × ×			
試合時間	3分12秒	6分7秒	2分56秒	2分29秒	5分0秒			

決勝 第一試合場 3日目

都道府県	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	勝者数	総本数	勝敗
東京	横田	竹ノ内	権瓶	中田	寺地	2	4	△
	× ×	× × コ	△	× ×	× × ×			
茨城	松崎	神部	海老原	鍋山	本名	3	8	○
	× × ×	×	ツ コ	× ×	× × ×			
試合時間	1分31秒	2分17秒	2分42秒	4分33秒	4分22秒			

【引用】

<https://www.kendo.or.jp/competition/kokutai-74th/>

<http://kokutai19.sokuho.s3-website-ap-northeast-1.amazonaws.com/gdt.html>

《参加要項・年齢構成》

■参加資格、所属都道府県及び選手の年齢基準 総則5に定めるもののほか、次による。

(1) 成年男子の内容（次の5名をもって1チームとする。）

先鋒 1994年4月2日以降～2001年4月1日までに生まれた者 1名

次鋒 1984年4月2日以降～1994年4月1日までに生まれた者 1名

中堅 1974年4月2日以降～1984年4月1日までに生まれた者 1名

副将 1964年4月2日以降～1974年4月1日までに生まれた者 1名

大将 1964年4月1日以前に生まれた者 1名

(2) 成年女子の内容（次の3名をもって1チームとする。）

先鋒 1989年4月2日以降～2001年4月1日までに生まれた者 1名

中堅 1979年4月2日以降～1989年4月1日までに生まれた者 1名

大将 1979年4月1日以前に生まれた者 1名

(3) 少年男子及び少年女子の内容選手は、5名をもって1チームとし、2001年4月2日以降に生まれた者とする。ただし、中学生以下の参加は認めない。

【引用】

<https://www.ibarakikokutai2019.jp/wp-content/uploads/2019/03/100df7bcb1578d429d9bfaa96174208f.pdf>

【電子号外】 第三種郵便認可 茨城新聞 2019年(令和元年)10月1日 火曜日



〈茨城成年男子 東洋との決勝を自らの手で決めた鶴山福弘 宅〉 下館総合体育館

# 剣道 成年男子

## 茨城 悲願の初V

2019 茨城国体

第74回国民体育大会「いきいき茨城ゆめ国体」は1日、筑西市の下館総合体育館で行われた剣道の成年男子で、先鋒・松崎賢士郎（筑波大）、次鋒・神部栄司（県警）、中堅・海老原秀則（同）、副将・鶴山福弘（筑波大教）、大将・本名和彦（科日立立高教）で臨んだ本県は、決勝で東京に3―2で勝利し、悲願の初優勝を飾った。

茨城新聞  
10月1日 火曜日  
茨城新聞社  
〒310-8666  
水戸市笠間町178-25  
電話(029)239-3001FC

電子号外

詳細は茨城新聞版面またはホームページ (<https://ibarakinews.jp>)、有料携帯サイトで。新聞の購読申し込みは0120-029-218